

退職のご挨拶

3年間ありがとうございました

砂原 千穂 医師

あすなる学園での3年間、とても楽しく仕事をさせていただきました。毎日が新鮮で、最後まで新しい発見の連続でした。退院前の子どもに、「先生もあすなる卒業するんでしょ?」と言われて、「ああ、ほんまやなあ…。寂しいけどしっかりしなきゃ。」と私も退院前の子どものような気持ちになりました。



子ども臨床を経験して思ったことは、子どもは「みんな」に見守られて成長するということです。親だけでなく、家族や兄弟や、友達や地域の支え（保育士、教諭）があって「子どもの居場所」ができるように、子ども臨床も、看護師・保育士・指導員・心理士・作業療法士・相談室職員・分校の教諭などが集まり包括的に見る、チーム医療でなければ成り立たないと改めて感じました。

外来で、ご両親や教諭が元気になることで、お子さん達も生き生きしてくる様子を何度も経験しましたが、あすなる学園の構造も同じだと思います。

思えば臨床場面でしんどくつらい経験がたくさんありましたが、諦めずに頑張れたのは、子どもの変化と、スタッフの支えがあったからです。

子どもが順調に回復していくには、子どもの健康な部分を伸ばすためのスタッフの関わりと、子ども同士が集団力動の中で学ぶことが大切で、これが治療の大部分を占めます。

また子どもは褒められ、認められることで育ち、元気になることも経験しましたが、大人も同じだと思います。私の欠点を上手にフォローして下さった子ども達やスタッフに感謝します。「こんな大人でも生きて行けるんやなあ。」と子ども達

も思ってくれたら、と切に感じます。

3年間の様々な経験を生かし、大阪でも大人と、子ども臨床をやっていく予定です。

今後とも、よろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

新任医師のご紹介

よろしくお願いいたします

中西 大介 医師

はじめまして。今年度4月よりお世話になっている中西と申します。平成13年に和歌山県立医科大学を卒業し、京都府立医科大学精神医学教室に入局。2年間の研修を終え、昨年度は日本三景のひとつ、天の橋立を臨む丹後地方の総合病院に精神科医として勤務しておりました。丹後地方は高齢者の割合が多いのですが、近隣に精神科医が少ないこともあり、幅広い年代の種々の疾患に出会う機会がありました。その中には、就学前のお子様の相談や中・高生の受診などもみられ、児童精神科医の必要性及びニーズの増大を痛感しました。



医師となって3年間は主に成人の精神科医療に従事しておりましたが、この度学生時代より強く興味があった児童精神科医の分野での仕事に携わる機会を頂き、非常に嬉しく思っております。あすなる学園に赴任し、早2ヶ月がすぎようとしています。日々新たな発見があり、多くの職種の方々に支えられながら新鮮な気持ちで診察に臨むことができいております。

子どもたちは成長の過程にあり、非常に可塑性が強いと思います。その成長発達を見守り、寄り添いながら、子どもたちの一助となれるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。